

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000031		
法人名	株式会社グループホームつなぎ		
事業所名	グループホームつなぎ(もみじ棟)		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木2120番59		
自己評価作成日	令和3年2月24日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は新型コロナの影響もありホームから隣接する町のグラウンドでの様々なイベントも中止が続いているが通常であれば様々なイベントの風景も感じられ山や海に囲まれたのどかな環境にあります。さつき棟もみじ棟の2ユニットを併設しており理念である「家庭的な雰囲気」「個々のペース」「健康で安全」「地域との交流」「笑顔の絶えない」を基に共に暮らしています。開設から10年を経過しようとしており看取りに関しても経験しながら日々前進しています。また転倒予防に関しセンサー(人感タイプ)を活用しながら転倒予防はもちろん行動の制限ではなく認知症の方の行動に対する安全な支援を目的とした取り組みを行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時からの経年により、当初からの入居者も介護度もあがるという重度化や98歳という高齢化傾向にあり入居者の最終章に寄り添いながら支援している。管理者を中心としてリーダーの役割の明確化や話し合いを重ねながらケア統一を図り、馴染みの関係性の中で個別の暮らしを実現させており、職員の定着率の良さも、サービスの質の確保に向けた大きな要因の一つとしている。特に、今年度は、コロナ禍に加え豪雨災害(道路冠水)等課題も多いが、本人本位の生活リズム・ペースでの生活(居室でテレビに興ずる方等)に理念である「個々のペース」が表われている。地域とのつきあい等コロナ禍では難しい状況にあるが、ホーム内での花火大会等創意工夫しながら、笑顔のある生活に繋がりたいと努力されている。開設して11年の地域生活がコロナ感染症により継続出来ないことは致し方もなく、コロナ収束後には、地域の中での生活が充実されるものと期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についての検討は行っているが理想像のまま継続している状況である為、引き続き話し合いの場を設けながらより良い理念への実現へとつなげていきたいと思う	家庭的な環境の中で個々のペースに合わせたケア…とする開設当初からの理念を継続している。管理者は、家庭的な部分は出来ているが、コロナ禍の中で地域との交流は難しい現状と認識している。外出クレーションや活動が出来ない分、食事会を行う等コロナの状況を見極めながら支援しており、理念を具体化して評価する姿勢に敬意を表したい。	新年度は理念の振り返りや認知症の研修等を組み入れており、ケアに直結できるような目標や、ホームが目指す“つなぎ像”等を策定すると良いと思われ、全員で検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ここ1年は新型コロナの流行により、地域行事や運営推進会議なども中止や書面での開催が相次いでおり交流や参加などが出来ていない状況である。(ホームとして感染予防を第一と考え)今後感染状況が落ち着きがみられた場合などには、積極的な参加等行っていければと考えている	コロナ禍の中で、地域行事の中止や外に出での交流制限もあり、地域につながるの生活は困難であるとして、地域との交流は課題として捉えている。	新型コロナ感染症の収束等により、地域との交流が促進されることを期待したい。密接にならない時間帯での支援等今できることに挑戦いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のキャラバン・メイト(認知症サポーター)として現在4名の職員が参加しているが、現在は新型コロナの影響により、活動自体が実施されていない状況である	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催予定だが現在は新型コロナの影響により利用者及び事業所関連(運営状況等)また事故報告を書面での開催としている。(町に確認、了承にて)令和2年度は令和2年12月にのみ事業所にて開催しコロナ禍におけるグループホームの実状などについて話し合う機会を設けることが出来た	行政と相談し書面の郵送での開催としており、あまり意見等は出されていない状況にある。しかし、コロナの状況を見極め開催した回には、老人会長や区長、民政委員、社協や地域包括支援センター等の参加を得て、ホームの現状報告や意見交換が行われている。	家族は参加されておらず、家族会の中で参加を促されている。運営推進会議の役割や意義を再度説明いただき、家族の参加意欲を引き出していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政、包括支援センター、社協も参加しており随時状況報告等を行っている。時節毎での情報等はメールや連絡にて対応している。実情での課題等がある時は必要に応じて行政担当者との話し合いも出来るようになっている	運営推進会議を行政との情報交換の場としていたが、今年度は会議の開催に向け相談し、コロナ禍においては書面開催としている。コロナ感染防止に向けた対策についての情報や何かあれば直接出向きながら相談するなど良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本年度も継続して関連項目の内部研修を実施しており基準上の禁止事項は周知徹底を図っている。また身体的拘束適正化検討委員会は現在書面のみでの活動である為今後も再度会議内容等の見直し検討を図る必要がある	身体拘束廃止に向けた指針を整備や、年2回の研修により拘束の弊害など正しく認識している。転倒リスクの高い入居者対応として家族に説明を行った上で介護計画書に組み入れ人感センサーを使用している。また、外出傾向や落ち着きの無い入居者等個々に把握し、一緒に散歩に出かける等、一人ひとりの状況を把握し支援されていた。現在は改善され落ち着いて生活されている。	職員の言葉遣いやスピーチロックらしき言葉には職員同士が注意喚起されているが、つい出てしまう言葉について、今後も意識を持つ等検討課題であると思われ、振り返りの機会を検討いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度も継続して関連項目の内部研修を実施しており理解防止に継続的に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連項目に関しては認識不足であり研修等の機会も設けてはいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも介護報酬改定等時は書面による同意や重要事項の改定も行っている。福祉機器等必要時の負担も契約時のみならず必要性が生じた際随時説明承諾で確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日常の関わり等から組み取りながら介護計画作成時等に定期的に要望などの確認をしている。家族等に関しては意見箱・面会簿コメント欄・介護計画作成時等に定期的に要望などの確認を継続して行っている。昨年は新型コロナの影響により家族会は中止の為意見要望の聞き取りが出来ない状況であった。また、運営推進会議への家族代表としての委嘱についてもコロナの影響等もあり実現出来ていない状況である	入居者には日々のケアの中で聞き取りしている。家族にはプラン作成時に意見や要望を聞き取りしたり、家族会が開催出来ない状況に家族との団欒の時間を作っている。家族への信頼関係構築として生かされている。コロナ禍の中で、窓越し面会や、玄関でのアクリル板を使用した面会等その時々状況を見ながら家族と入居者との面会を叶えている。	ホームからの便りと共に、運営推進会議の議事録や資料も送られることを検討いただきたい。この会議が家族の問題提起の場として、家族の声が聞かれるものと期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なリーダー会議の実施の際やそれ以外でも意見等が挙がった場合には随時議論検討する機会を設け出来る限り早急な対応や反映を行っている	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図りながら意見等を聞き取りする他、職位基準により体制を明確に示し、各ユニットリーダーがスタッフ間の相談や問題の対応、ケア全般の調整等に努めている。また、リーダー会議により職員の意見や提案等を話しあい、職員の希望による勤務シフト等柔軟に対応することで離職も無く、風通しの良い環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の希望に応じた就業環境を配慮しており、個々の職務役割等において処遇改善への反映も行っている。また調理業務に対して業務軽減等も目的とした食材サービスも行いながら就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を2ヶ月に1回実施しており外部研修に関しては新型コロナの影響等も考慮してほとんど実施出来ていない状況である。引き続き資格取得時等にはシフト調整や研修等の負担も行い職員を育てる取り組みを行っていく予定である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は熊本県地域密着型サービス連絡会地区ブロック会の世話人としての役割があり、新型コロナの影響もあることから研修や交流の機会は通常より少ない状況である。他の専門職協会への加入もあるが、上記と同様コロナの影響にて中止が相次いでおり交流の機会が少ない状況である		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前には面談や見学も実施している。また利用に当たって本人はもちろん、本人以外から聞き取れる情報などからも要望等の確認を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前には面談や見学も実施している。また利用に当たって本人はもちろん、本人以外から聞き取れる情報などからも要望等の確認を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前での面談や関係機関からの情報収集・情報提供等に努めて暫定的な状況把握から必要な支援を見極めケース会議等で段階的な支援へとつなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意向・性格・生活歴・心身機能等を配慮した上で家事、TV鑑賞、催し物の準備などを共にしており生活リハビリにも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナの影響もあり面会制限を実施している為なかなか面会の機会が持てていない状況である。(窓越しの面会については実施中)その中で毎月のお便り(写真付き)から普段の状況報告、必要に応じながら電話での報告を行いながら家族とも共有を行いながら関係構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への継続支援、自宅への外出外泊についてはコロナの影響もあり現在は控えている状況である。コロナの終息後は以前のような関わりの支援を行っていく	葬儀への参列や、かかりつけ医の継続、家族との窓越や玄関先での面会等コロナ禍で出かける事は難しい状況に出来る最大限の支援に努めている。毎年開催される花火大会の代わりとしてホームで花火大会を行ったり、節分の豆まき、クリスマス会や忘年会等で楽しんでいる。また、入居者同士が昔からの知り合いという関係にお互いが労いながら生活されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や病状等にも考慮し随時テーブルの配置替えなどを行いながら利用者同士の関わり合いが増えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時でも状況に応じて関係機関等への情報提供や支援等出来る限り対応を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えが可能な方は出来る限り意向に沿えるよう対応をしている。伝えることが困難な方に関しては表情や性格生活歴なども考慮しながら意向の把握に努め対応している	入居者一人ひとりの思いや希望は日常の中で把握し、誕生日には食べたいものを聞き取りした食事の提供や意思疎通の難しい方には選択できるような言葉かけ(イエス・ノーで返答できるよう)、うなずきや、表情・行動などにより推察する等本人の意思決定に寄り添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前には本人家族関係機関等から調査や情報収集をし、随時把握にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりによる状態観察、経過記録やケース会議等で随時状態の把握に努めている。本人の状態や個々のペースに合わせた自立支援につながるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望、アセスメント等を基に定期的に課題分析介護計画の作成をしている。状態変化時なども臨機応変に見直しも行いながらモニタリング実施し現状の把握に努めている	本人・家族の意向等を聞き取りし、怪我等に注意し、健康に過すことを目標としたり、落ち着いた生活の継続に向けた詳細なサービス内容等をプラン化し、ケア会議の中で職員と相談している。定期的な見直しの他、心身の状態変化に応じた見直し等現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への日々の実践状況や状態を記録して職員間での共有を図りながらケース会議等にて随時検討を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護(医療)や訪問診療の利用等にて現在必要なニーズに応じたサービスの活用が出来るよう取り組んでいる。また実際には実施出来てはいないが要望による訪問リハビリの活用などの検討も行うなど柔軟な支援に取り組んだ経緯もある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容店、消防、訪問診療等の活用は継続しているが、コロナの影響にて様々な制限もある事や地域資源の把握不足である事も現状としてある為今後の課題の一つである		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族等の意向に沿い基本的にはサービス開始前からのかかりつけ医の継続となっている。病状等に伴う状態変化や重度化に対し夜間祝日の緊急対応等が可能な医療機関への変更等も都度説明を行いながら同意を得て対応している。本人はもとより周囲に関わる方々への安心につながるような支援を行えるよう考慮している	入居前からのかかりつけ医の継続や、状態悪化に伴い新たに家族と相談し変更されることもある。受診には家族の協力もあるが、状態変化時の受診時には家族に同行してもらい、主治医より直接状況を聞いたもらうこととしている。状態によっては、訪問診療への切り替えを視野に、家族と話し合い同意を交わして変更している。また、今まで通っていた歯科への受診や訪問歯科も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理(バイタルチェック)や状態観察により情報共有を行いながら看護職との連携を図っている。かかりつけ医への報告相談等も随時出来ており受診等の早期対応などの支援も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供書等行っている。コロナの影響で面会自体は難しい状況だが病院関係者への状態確認や状況報告等で現状把握に努めている。退院前など必要に応じた家族関係者等も含めた話し合いや退院後の状態に応じた支援の継続が行えるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始前また途中には重度化や終末期に関する指針を説明して同意を得ており、対応出来る部分や出来ない部分と細やかに伝えている。状態に応じてかかりつけ医の変更や訪問看護利用にて現在まで看取りの実績を積んだが本人の状態及び本人家族の意向また医療機関等の体制上で対応の有無も変わってくところは引き続き検討課題である	入居前に重度化した場合や終末期ケアについて指針をもとに説明し(医療行為が必要な場合には対応できない事)、その後、心身の状態変化により必要な説明を行い、同意を交わしている。ホームではこれまで数例の看取りを支援しているが、夜間対応のできる病院への変更、訪問看護の利用、及び主治医との連携により最良の支援に努めている。特養へ申し込みをされている家族もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連項目の内部研修は実施しているが実践の場面が少ない為、救命講習の参加や内部研修でも実践力を身に付けられるような研修、訓練が必要である。救急時はすぐに通報出来るよう心がけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響で現在は消防機関の立ち合いは出来ない状況だが消防用設備点検業者立ち合いにて消防訓練を実施している。備蓄管理や災害に関する避難確保計画、7月豪雨後に避難等に係る基準事項について避難基準等も作成し職員への周知徹底を図っている	年2回、設備業者たち立ち会いにより、火災を想定した総合避難訓練を実施している。昨年7月の豪雨災害ではホームに直接的な被害はなかったものの、周辺の道路が冠水した事で、これまでの訓練では徒歩で近くの役場へ避難したこともあり、警戒レベル4の発生に伴い、早速マニュアルを見直している。建物内外の安全チェックと、食備蓄により有事に備えている。	コロナ禍で、現在は中止されているグループホーム連絡協議会の中で、水害の状況や今後の対策について話し合いが計画されており、ホームの災害対策に反映される事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や写真掲載の同意を書面で得ている。職員に関しては守秘義務等の誓約を書面で得ている。待遇や個人情報に関しての内部研修も継続して実施している。様々なケアの場面でのプライバシーの配慮は出来ているが、慣れ合いによる言葉かけは気を付けていかなければならないと感じる場面もある	職員は、個人情報や接遇について研修し、移動の少ない職場環境が馴染みの関係性を築いている。しかし、親しい仲間にも節度を持ち、なれ合いの言葉遣いには十分注意しなければならないと認識している。入居者に分かりやすい呼び方として、苗字や下の名前で対応している。入浴時の同性介助について、女性職員に羞恥心を持たれる男性入居者へは出来る限り配慮し、男性職員が関わりを持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々なケアの場面では一つ一つ確認を取りながら出来る限り自己決定が出来るような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には個々のペースに合わせた対応を行っているが本人等の身体に危険を及ぼすような場面では職員からの介入も行いながら安全面にも配慮した支援を行っている。業務上の都合等ですぐに希望に沿えない場合は出来るだけ早急に対応出来るように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの化粧水等を使用するため職員などで購入し継続している方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な環境設定のため事業所で調理をしており利用者も野菜の皮むき等出来る部分は一緒に作業を行っている。季節食や誕生会食にて個々に応じた形態の提供も継続している。また現在は月に数回だが栄養面、品数もある食品業者も活用している	地元の鮮魚店をはじめとして、地域からの配達される食材の利用等地産地消に努めている。行事食の他、週に1回は入居者の希望を取り入れた朝食のパンの日も設けている。毎回職員が手作り調理をしていたが、現在は月に2~3回業者による食事を提供している。入居者も出来ることで食に関わり、車椅子利用者も椅子に移乗して食事をとってもらうこととして、車椅子は移動手段として捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表にて摂取量の把握をし状況に応じて補食等で対応している。また個々の食器を使用しながら状態に合わせた食事の提供に努めている。アレルギーや好み等での代替食の提供もしている。体重管理や食事時間の配慮も行っている。必要に応じては主治医へも相談等も随時実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を活かしながら本人の状態に応じた口腔ケアを実施している。スポンジブラシ等の活用や毎日の義歯洗浄剤の使用を行いながら口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診や訪問歯科の支援を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握に努めケース会議等で検討を行いながらリハビリパンツから布パンツへの移行や皮膚状態等にも配慮排泄用品の使用などの支援もしている	職員は排泄をチェックすることで、個々の状況を把握し、声掛けや誘導による排泄を基本に支援している。入居者に必要な排泄用品の検討により、リハビリパンツから布下着への改善が出来た事例や、おむつ使用でも職員2名で立位が取ればトイレでの排泄を支援している。転倒の危険性にポータブルトイレを使用される場合も有り、個別のADL等を把握し、適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に応じながら毎朝のヨーグルトの提供や排便状況の確認を行いながら必要に応じてかかりつけ医へ相談行い指示をもらいながら下剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある方に対しては無理強いせず時間をずらすや別の職員に替わっての声かけなどの対応を実施している。現在は使用頻度はあまりないが福祉用具の準備もある為必要に応じて使用しながら入浴支援に努めている	週2回を基本として、入居者と職員との会話によりゆっくりとした入浴に心がけている。入浴前の声かけにより、自分で着替えを用意される方や、職員が選択する場を作り自分で選んでもらう自己選択の機会を作っている。浴室や脱衣所の温度差に注意し冬場はヒーターの活用や、介助が難しい方には2名での支援と、安全にも配慮した入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動量の確保や状況に応じて昼寝などの時間も取り入れながらメリハリある生活を通して夜間の安眠につながるよう支援している。居室内も不安感がある方は必ずしも電気を消灯せず明かりを付けた状態で休んで頂く等の支援もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細については薬情等で随時確認しており変更時も申し送り等で周知徹底が図れるよう行っている。服薬管理については服薬チェック表とダブルチェックとなるような方法をとっている。状態に応じて主治医へ報告相談も随時行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴も考慮して洗濯物たたみ等を継続して行いながら役割意識を持って頂くことで生活の活性化へのつながるよう支援している。また散歩やレクリエーション等を通して楽しみや気分転換を図る機会も設けながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向に沿った外出支援を行えるよう対応を心がけているが業務等の都合上にて難しい場合や現在コロナの影響も考慮して外出の頻度は少ない状況である。現在可能であるホーム周囲への散歩などは積極的に行いながら戸外に出かけ気分転換を図れるような支援に努めていく	外出の制限がある中、ホーム周辺の散歩により入居者が戸外に出られるように工夫している。病院受診や衣類を取りに自宅まで出かける等身近な外出や、ホーム内から季節の移ろいを感じてもらうなど密にならない支援に努めている。	コロナ禍の中で、出来る支援に努められており、収束後には家族の協力も得ながら個別外出に取り組まれるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向により所持することで安心される場合は家族承諾の元で現金の所持は可能であるが、現在は対象される方はおらず主に小口金からの購入が多い現状である		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば実施は可能であるが現在実施されている利用者はいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた設えにて季節感や生活感の考慮はしているが利用者にとって気になるような物品に関しては状態によって除去しながらの空間作りに努めている。冬場には寒暖差が極力少ないようにすむように暖房器具の使用も行っている	玄関内やリビングの壁面の利用や、時節柄ひな人形を飾る等季節感を出す様工夫している。リビングで知り合い同士が隣に座り世間話に花が咲いたりお世話をされるなど個々のペースで過される姿もあり、一人ひとりの暮らし方を尊重したテーブル配置は、入居者の様子を見ながら、相性やその時の気分や状態によりレイアウトしている。時間の制約もなく、朝からゆっくり起き出して朝食を摂る方等自由な環境が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においてはその時々を利用者の状況状態に応じてテーブルの分散配置も行いながら臨機応変に実施している。現在コロナの影響もあり人の移動に関して極力両ユニット間の行き来は控えるように対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス開始時または随時馴染みの物の持込みの意味や自由であることは説明しており持込み品は各自それぞれである。不足品や買い替えが必要な際にも家族に連絡を取りながら協力を得ている。居室掃除、洗濯、布団干しチェック表にて定期的実施し環境整備に努めている	入居前に居室を見てもらいながら、必要な持ち込みを依頼している。自分の部屋として、持ち込みの制限をせず、入居後も随時必要に応じ持参されている。衣装ケースやテレビ、筆筒、家族写真等が持ち込まれ、コロナ禍前には家族が季節の衣替えをされていた。入居者がいつでも気持ちよく就寝できるように、布団の日光干しはチェック表に記録し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は全面バリアフリーである。トイレ・浴室の掲示や居室は名札での掲示にて認識しやすいよう環境設定行いながら自立支援を促している。個々の身体状態に考慮した福祉用具の手すり等の設置なども行い残存機能を活かしながら安全な環境づくりに努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000031		
法人名	株式会社グループホームつなぎ		
事業所名	グループホームつなぎ(さつき棟)		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木2120番59		
自己評価作成日	令和3年2月25日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから隣接する町のグラウンドでの様々なイベントの風景も感じられ山や海に囲まれたのどかな環境にあります。2ユニットを併設しており理念である「家庭的な雰囲気」「個々のペース」「健康で安全」「地域との交流」「笑顔の絶えない」を基に共に暮らしています。今年度はコロナ禍の中で活動や研修等を制限せざるを得ない状況ではあったが離職もない職員体制の中で開設11年目を迎えようとしており日々経験を積んで前進しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時からの経年により、当初からの入居者も介護度もあがるという重度化や98歳という高齢化傾向にあり入居者の最終章に寄り添いながら支援している。管理者を中心としてリーダーの役割の明確化や話し合いを重ねながらケア統一を図り、馴染みの関係性の中で個別の暮らしを実現させており、職員の定着率の良さも、サービスの質の確保に向けた大きな要因の一つとしている。特に、今年度は、コロナ禍に加え豪雨災害(道路冠水)等課題も多いが、本人本位の生活リズム・ペースでの生活(居家でテレビに興ずる方等)に理念である「個々のペース」が表われている。地域とのつきあい等コロナ禍では難しい状況にあるが、ホーム内での花火大会等創意工夫しながら、笑顔のある生活に繋げたいと努力されている。開設して11年の地域生活がコロナ感染症により継続出来ないことは致し方も

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念が理想的であり継続している。理念を区切って実践状況进行评估すると全体的には概ね実践されていると思うが共有という意味では表面的なのかも知れないと感じる	家庭的な環境の中で個々のペースに合わせたケア…とする開設当初からの理念を継続している。管理者は、家庭的な部分は出来ているが、コロナ禍の中で地域との交流は難しい現状と認識している。外出クレーションや活動が出来ない分、食事会を行う等コロナの状況を見極めながら支援しており、理念を具体化して評価する姿勢に敬意を表したい。	新年度は理念の振り返りや認知症の研修等を組み入れており、ケアに直結できるような目標や、ホームが目指す“つなぎ像”等を策定すると良いと思われ、全員で検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前々からの課題項目ではあったが今年度は特にコロナ禍の状況でもあったため地域との交流行事や活動等においても制限せざるを得ない状況であった	コロナ禍の中で、地域行事の中止や外に出での交流制限もあり、地域につながるの生活は困難であるとして、地域との交流は課題として捉えている。	新型コロナウイルス感染症の収束等により、地域との交流が促進されることを期待したい。密接にならない時間帯での支援等今できることに挑戦いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年通りであれば4名のキャラバンメイトが在籍しており地域に向けた認知症サポーター養成講座の活動に参加しているが今年度はコロナ禍の状況でもあったため実施できなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催をしているが今年度はコロナ禍の状況でもあったため町の担当職員にも相談の上で、ほとんどが書面送付のみの開催となり意見交換等はあまりできなかった	行政と相談し書面の郵送での開催としており、あまり意見等は出されていない状況にある。しかし、コロナの状況を見極め開催した回には、老人会長や区長、民政委員、社協や地域包括支援センター等の参加を得て、ホームの現状報告や意見交換が行われている。	家族は参加されておらず、家族会の中で参加を促されている。運営推進会議の役割や意義を再度説明いただき、家族の参加意欲を引き出していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には町の担当職員もメンバーであるが前項目の状況でもあったため会議での情報交換はできなかったが課題相談など必要時は随時連絡等しながら協力関係は築けていると思う	運営推進会議を行政との情報交換の場としていたが、今年度は会議の開催に向け相談し、コロナ禍においては書面開催としている。コロナ感染防止に向けた対策についての情報や何かあれば直接出向きながら相談するなど良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も項目関連の内部研修を2回実施して再認識に努めている。身体的拘束適正化検討委員会は運営推進会議と同時に開催していたが前項目の状況でもあったため書面送付のみの開催となったが身体拘束はしていない	入居者には日々のケアの中で聞き取りしている。家族にはプラン作成時に意見や要望を聞き取りしたり、家族会が開催出来ない状況に家族との団欒の時間を作っている。家族への担当職員からの個別のお便りが、家族との信頼関係構築として生かされている。コロナ禍の中で、窓越し面会や、玄関でのアクリル板を使用した面会等その時々状況を見ながら家族と入居者との面会を叶えている。	職員の言葉遣いやスピーチロックらしき言葉には職員同士が注意喚起されているが、つい出てしまう言葉について、今後も意識を持つ等検討課題であると思われ、振り返りの機会を検討いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も継続して項目関連の内部研修を実施しており理解を図り防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	項目関連に関しては研修等の機会もなく認識不足ではあるが必要性が生じたときなどは研修等の機会も必要と思われる。生活保護者の受入れ支援はしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当初の契約時に概ね想定されることは説明している。改定時等は随時書面による同意や福祉用具等の必要性が生じた場合でも随時説明承諾を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しては意思表示できる方も多く配慮しており要望等の確認もしている。家族等に関しては例年は家族会にて意見交換の場を設けていたが今年度はコロナ禍の状況で開催せず。意見箱や面会簿にも自由コメント欄があるが面会制限していた期間も長かった。介護計画作成時は要望等の確認はしている。運営推進会議メンバーに現在家族代表が不在であるため委嘱を検討している	入居者には日々のケアの中で聞き取りしている。家族にはプラン作成時に意見や要望を聞き取りしたり、家族会が開催出来ない状況に家族との団欒の時間を作っている。家族への担当職員からの個別のお便りが、家族との信頼関係構築として生かされている。コロナ禍の中で、窓越し面会や、玄関でのアクリル板を使用した面会等その時々々の状況を見ながら家族と入居者との面会を叶えている。	ホームからの便りと共に、運営推進会議の議事録や資料も送られることを検討いただきたい。この会議が家族の問題提起の場として、家族の声が聞かれるものと期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月毎のユニットケース会議にて利用者個々並びに運営に関する意見提案の場があり随時検討している。全体のリーダー会議においては同様内容と大事な事項の検討もしているがリーダー不在であるのが課題	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図りながら意見等を聞き取りする他、職位基準により体制を明確に示し、各ユニットリーダーがスタッフ間の相談や問題の対応、ケア全般の調整等に努めている。また、リーダー会議により職員の意見や提案等を話しあい、職員の希望による勤務シフト等柔軟に対応することで離職も無く、風通しの良い環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの環境等に応じた就業配慮や希望を尊重している。個々の職務役割等において処遇改善への反映もある。離職もない勤務継続の中で利用者の生活の継続性にもつながっていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修の継続や資格取得のためのシフト調整等配慮しスキルアップを図っている。今年度はコロナ禍の状況で外部研修ができなかった		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会地区ブロック会での世話人をしている。通常であれば年の数回勉強会や交流会等実施しているが今年度はコロナ禍の状況や災害もあり管理者会議のみに留まっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には本人との面談を実施して要望意向等の確認などコミュニケーションを図っている。また見学も随時実施している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前には家族等との面談を実施してホームの概要説明や状況要望等の確認をしている。本人家族との意向の違いなどあった場合は、話し合いなどを促している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前の関係機関からの情報収集や面談調査要望等の確認においてアセスメント実施してケア方法や福祉用具等の暫定的な初期支援の見極め、更にケース会議等で段階的な支援へとつなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意向、性格、心身機能等を考慮しながら家事掃除、催し物の準備などを行いながら生活リハビリにもつながっている。職員から「ありがとう助かった」という言葉もよく聞かれている。制服も指定せず利用者一職員とならないような配慮もしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常は定期的な面会促しや面会時の居室にてゆっくりできるような配慮、宿泊も可能で正月等の外出外泊の促しもしているが今年度はコロナ禍の状況であまりできなかった		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ禍の状況で面会外出等制限もあったが家族知人等のアクリル板や窓越しでの面会や電話で話すなど、できることは配慮した	葬儀への参列や、かかりつけ医の継続、家族との窓越しや玄関先での面会等コロナ禍で出かける事は難しい状況に出来る最大限の支援に努めている。毎年開催される花火大会の代わりとしてホームで花火大会を行ったり、節分の豆まき、クリスマス会や忘年会等で楽しんでいる。また、入居者同士が昔からの知り合いという関係にお互いが労いながら生活されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で家事等のお手伝いをして頂いたり、性格、認知症状、関係性等を配慮して随時配置等の状況に合わせた環境に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時でも必要に応じて関係機関への情報提供や支援等できる限り努めている。過去に在籍していた利用者家族等からの相談も増えてきたように思う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活においては状態等を配慮しながらも本人確認し意向に沿って本人のペースで過ごして頂いている。定期的な希望意向確認もしている。意思表示の困難な方は状態等を配慮しながら本人本位となるようケース会議等で検討している	入居者一人ひとりの思いや希望は日常の中で把握し、誕生日には食べたいものを聞き取りした食事の提供や意思疎通の難しい方には選択できるような言葉かけ(イエス・ノーで返答できるよう)、うなずきや、表情・行動などにより推察する等本人の意思決定に寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前には本人や家族面談調査、関係機関からの情報収集で生活歴、暮らし方、環境等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議や経過記録等で随時状態把握に努めて自立支援や役割等を促している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを実施して課題を抽出し本人家族等の要望等も含めて介護計画作成説明を行いモニタリングや状態に応じて見直しも実施している	本人・家族の意向等を聞き取りし、怪我等に注意し、健康に過すことを目標としたり、落ち着いた生活の継続に向けた詳細なサービス内容等をプラン化し、ケア会議の中で職員と相談している。定期的な見直しの他、心身の状態変化に応じた見直し等現状に即したプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録により介護計画の実践状況および、その他の気づき状態等も記入しており送りケース会議等で共有および検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでは看取り体制整備のため訪問診察看護利用による連携、今年度も個々の利用者のニーズに対応するため実績にはつながらなかったが訪問機能訓練の支援確保に取り組んだりしている。制度上の制限等でニーズに対応できないこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診察、消防、訪問美容、ボランティアなど常時随時で活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人家族の希望に沿って、かかりつけ医を決めており概ねサービス利用前から継続している。夜間等対応不可の医療機関の場合など緊急時の医療機関の希望も聞いている。重度化に向けてのかかりつけ医変更の必要性が検討される時は本人家族承諾のもとで変更している。歯科眼科など突発的な受診も本人家族に確認して受診している	入居前からのかかりつけ医の継続や、状態悪化に伴い新たに家族と相談し変更されることもある。受診には家族の協力もあるが、状態変化時の受診時には家族に同行してもらい、主治医より直接状況を聞いたもらうこととしている。状態によっては、訪問診療への切り替えを視野に、家族と話し合い同意を交わして変更している。また、今まで通っていた歯科への受診や訪問歯科も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康管理(バイタルチェック、食事水分チェック)や状態観察により状態変化時等は、かかりつけ医報告相談及び受診等早期対応は良くできていると思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書等を行っており定期的に面会などで状態把握に努めており退院前には必要に応じて家族も含めた退院前カンファレンスも実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用前から重度化や終末期に関する指針の説明同意を得ており、対応できる部分、できない部分など想定できる範囲で伝えている。終末期看取りに備えてのかかりつけ医変更や連携への体制確保など要望に沿えるようできる限りで取り組んでいる	入居前に重度化した場合や終末期ケアについて指針をもとに説明し(医療行為が必要な場合には対応できない事)、その後、心身の状態変化により必要な説明を行い、同意を交わしている。ホームではこれまで数例の看取りを支援しているが、夜間対応のできる病院への変更、訪問看護の利用、及び主治医との連携により最良の支援に努めている。特養へ申し込みをされている家族もおられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度も項目関連の内部研修実施しており救命講習受講者も複数いるが実践の場面は少ないため実技の研修等は必要である。救急時は、とにかくすぐ通報するよう心がけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練に関しては年2回は実施している。備蓄保管や非常災害に関する計画もあるが豪雨災害もあったため更に実践的な訓練等で課題分析の必要性もある	年2回、設備業者たち立ち会いにより、火災を想定した総合避難訓練を実施している。昨年7月の豪雨災害ではホームに直接的な被害はなかったものの、周辺の道路が冠水した事で、これまでの訓練では徒歩で近くの役場へ避難したこともあり、警戒レベル4の発生に伴い、早速マニュアルを見直している。建物内外の安全チェックと、食備蓄により有事に備えている。	コロナ禍で、現在は中止されているグループホーム連絡協議会の中で、水害の状況や今後の対策について話し合いが計画されており、ホームの災害対策に反映される事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者家族には個人情報や写真掲載の同意を書面で得ている。職員についても守秘義務等の誓約を書面で得ており今年度も関連項目の内部研修を実施している。様々なケアの場面でのプライバシーの配慮はできているが慣れ合いによる言葉かけ等は注意していかなければならないと感じる	職員は、個人情報や接遇について研修し、移動の少ない職場環境が馴染みの関係性を築いている。しかし、親しい仲にも節度を持ち、なれ合いの言葉遣いには十分注意しなければならないと認識している。入居者に分かりやすい呼び方として、苗字や下の名前で対応している。入浴時の同性介助について、女性職員に羞恥心を持たれる男性入居者へは出来る限り配慮し、男性職員が関わりを持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる利用者の割合が多いため意思を尊重して対応できていると思うが業務主導となってしまう部分はある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前項同様で意思を尊重した対応は概ねできていると思うが、どうしても業務主導になるころはある。食事時間や日課等もなく本人のペースでは過ごせて頂いているとは思っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で服を選んだり身だしなみを整えたりできる方は自身でされている。髪染めの要望も職員で対応したりしている。自身でできない方に関しては職員主導になっているところもあり特に整容等は配慮が欠けているときもある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	継続して家庭的な環境設定のため事業所で調理を行っており台拭き片付け等できる部分は一緒に作業している。食事は利用者職員とも基本的に同じ食事を食べており季節食や誕生会食また個々の状態に合わせた食事形態も配慮している。全体的な業務効率のため月数回食品業者の活用はある	地元の鮮魚店をはじめとして、地域からの配達される食材の利用等地産地消に努めている。行事食の他、週に1回は入居者の希望を取り入れた朝食のパンの日も設けている。毎回職員が手作り調理をしていたが、現在は月に2～3回業者による食事を提供している。入居者も出来ることで食に関わり、車椅子利用者も椅子に移乗して食事をとってもらうこととして、車椅子は移動手段として捉えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はある程度バランスを考慮している。毎日、食事水分摂取量をチェック表に記載し把握している。体重管理、食事時間、介助具及び方法等の工夫もしている。必要に応じてかかりつけ医相談等で補食その他、指示を仰いでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後等の口腔ケア、定期的な義歯消毒など個々に応じた介助を行い、必要に応じて歯科受診、訪問歯科利用または相談等している。希望で洗口液を使用している利用者もいる		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りでトイレやポータブルトイレでの排泄を心がけておりオムツもリハビリパンツなどコスト削減に努めている。個々に合わせたトイレ誘導やパッド交換を行う。毎日のトイレ掃除またポータブルトイレ洗浄もしている	職員は排泄をチェックすることで、個々の状況を把握し、声掛けや誘導による排泄を基本に支援している。入居者に必要な排泄用品の検討により、リハビリパンツから布下着への改善が出来た事例や、おむつ使用でも職員2名で立位が取ればトイレでの排泄を支援している。転倒の危険性にポータブルトイレを使用される場合も有り、個別のADL等を把握し、適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の希望や状態に応じながら毎朝ヨーグルトやバナナの提供。排泄チェック表にて排便の頻度性状等の確認を行いながら必要に応じて、かかりつけ医へ報告相談行い指示や下剤調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある方に対しては無理強いせず時間をずらすなどの対応を行っている。また複数介助が必要な利用者など状態に応じた支援をしている。室温管理もしている。業務の都合での日時指定になってしまうが現状調整は難しい	週2回を基本として、入居者と職員との会話によりゆっくりとした入浴に心がけている。入浴前の声かけにより、自分で着替えを用意される方や、職員が選択する場を作り自分で選んでもらう自己選択の機会を作っている。浴室や脱衣所の温度差に注意し冬場はヒーターの活用や、介助が難しい方には2名での支援と、安全にも配慮した入浴を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向を尊重しながらも日々午睡の促し、意思表示や行動困難な利用者は身体面を配慮して定期臥床もしている。また夜間帯であっても無理に入眠を促せず見守りしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細については薬情等で確認しており変更時は随時申し送り等で周知。服薬管理については服薬チェック表とダブルチェックとなるような方法をとってはいる。状態に応じて主治医報告相談も随時している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向やペースにて過ごして頂きながら作業、家事、体操、行事、散歩等している。嗜好品も酒類等のホームとしての制限は特に設けていない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や季節毎での見学等していたが、今年度はコロナ禍の状況で、ほとんど外出できず。近場の散歩はできる限り取り組んだ。ただ以前より業務等の都合もあるが全体的に頻度は少なく不足と感じる	外出の制限がある中、ホーム周辺の散歩により入居者が戸外に出られるように工夫している。病院受診や衣類を取りに自宅まで出かける等身近な外出や、ホーム内から季節の移ろいを感じてもらおうなど密にならない支援に努めている。	コロナ禍の中で、出来る支援に努められており、収束後には家族の協力も得ながら個別外出に取り組まれるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向等で所持している利用者もいるが、主に小口金として預かっている。利用者自身が実際にお金を使う機会はなく今年度はコロナ禍の状況で買い物にも出かけていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があった方は本人または職員代弁で対応している。年賀状や手紙等届くことはある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期に応じた飾りや作品の掲示で季節感や生活感の考慮はしているが安全面の配慮で物品等を取り除くこともある。新聞チラシ等を交互で見られることもある	玄関内やリビングの壁面の利用や、季節柄ひな人形を飾る等季節感を出す様工夫している。リビングで知り合い同士が隣に座り世間話に花が咲いたりお世話をされるなど個々のペースで過される姿もあり、一人ひとりの暮らし方を尊重したテーブル配置は、入居者の様子を見ながら、相性やその時の気分や状態によりレイアウトしている。時間の制約もなく、朝からゆっくり起き出して朝食を摂る方等自由な環境が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室であり本人のペースで過ごされている。共用空間においてもその時々の利用者の状態に応じてテーブルの分散配置など臨機応変にしている。両ユニット間の行き来も自由である		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス開始時また随時馴染みの物の持ち込みの意味や自由であることは説明しており持ち込み品はそれぞれ様々である。衣替えの協力も得ている。毎日の清掃換気その他チェック表にて布団干しも定期的に行っている	入居前に居室を見てもらいながら、必要な持ち込みを依頼している。自分の部屋として、持ち込みの制限をせず、入居後も随時必要に応じ持参されている。衣装ケースやテレビ、筆筒、家族写真等が持ち込まれ、コロナ禍前には家族が季節の衣替えをされていた。入居者がいつでも気持ちよく就寝できるように、布団の日光干しはチェック表に記録し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は全面バリアフリーとなっている。トイレ・浴室の掲示や居室は名札で掲示しており認識し易いようにしており自立支援を促している		